

西光

第 10 号

百橋山 西光寺
高岡市京町一〇一・二五
電話(〇七六六)二二二九七
FAX(〇七六六)二二二三七〇
平成八年九月十五日

《最新米国流行事情》

今年正月早々、文部省の海外研修の許可と奨学金を得て、丸二ヶ月間、アメリカ各地の美術館で、かつて日本から流失した美術品の調査研究に当たり、最後にイギリス・フランスを回って三月初めに帰国した。今年の冬は異常な寒波の襲来で、ニューヨークなどの東海岸は大雪、シカゴなどの中部は氷点下30度を下回る極寒の毎日など強烈で困難な旅であった。しかし往々先々ではアメリカ人の旧友が大歓迎してくれたのではとどんなの心配もいらなかった。

さて、久しぶりに訪ねたアメリカで、私の目を驚かせたのは、最近のアメリカ社会の変貌であった。アメリカと言えば、自動車が疾走するハイウェイを初め、先端を行くコンピュータ、巨大なビル群やマクドナルドのハンバーガーチェーン店を、そしてマフィアにガン(銃)を思い出すかもしれない。しかし今ニューヨークの街で、またロサンゼルスで見る最新の流行の風景は、そんな壮大な風景ではない。静かに、しかもどこにでも見られるのは、実は赤ん坊を連れた男女の異常とも言える数の多さである。今アメリカではなんとベビーブームが巻き起こっているのである。老いも若きもいま子造りに励んでいる。よってニューヨークで今一番流行るナウい店はベビー用品の店である。また街角でもスーパーでも、レストランでも赤ん坊を連れた夫婦(?)が誇らしげにベビーカーを引いている。かつてアメリカでは離婚の激増、結婚しない男女や、同性愛の認知の問題など、そして幼児虐待・子供の非行、エイズや麻薬の広がりなど、家庭の崩壊をきっかけとする様々な問題がアメリカ社会を揺るがせてきた。ところが、今家庭への帰郷が静かで力強い流れとして定着し、それがアメリカの経済、社会を明るく方向へと向上させる大きな要因になっている。人と人との出会いの不思議な縁や互いの生活を分かち合う家族のつながりの大切さが、ようやく人々の心の中に浸透し始めているのである。あのドライで自己中心的と見えたアメリカ人が、真剣に人間的な情愛を築こうと燃える姿はなんともほほえましい。一方出生率が減少し続けている日本、そして家庭内暴力、いじめに登校拒否、また高齢者に対する介護福祉問題など、バブルの崩壊後ことなく元気がない日本の姿が寂しく浮かんできく。心の支えを見失った、虚ろな溜息が聞こえてくる。生活の原点である家庭や、生き甲斐の拠り所である家族の大切さを、もう一度再認識し、人と人との不思議な縁を素直に喜ぶ心を、改めて見直す必要がある。それが人間としてこの世に生まれさせていただいたことの意義に目覚めよとの、ほとけの呼び声に静かに耳を傾けることなのである。

《蓮如上人五百回御遠忌に向けて》

蓮如上人は、宗祖親鸞聖人のみ教を身命かけて聞き開かれ、本願寺第八代として、生涯を尽くして聖人の一流の再興に心血を注がれました。特に仏法を中心とした真宗門徒の生活を示され、お講をひらき、聞法談義して信心を明らかにせよと説かれ、勤行には、宗祖の「正信偈・和讃」で念仏申すことを勧められました。戦国乱世の人々に、人間が平等に救われて行く道が念仏であることとを、わかりやすく「お文」に託して示されました。ことに北陸では吉崎に御坊を設け、教化に努められ、その結果、真宗の教えが民衆の間に生き生きと浸透し、六字の名号によって「阿彌陀如来」に帰依する、仏法が身近なものとして、日々の生活の指針となっています。明応八年(1499)八十五歳で示寂され、以来その法統を伝えて今日に至っています。西光寺もまた念仏道場の拠点として、最初は百橋に拠を構え、次いで岩坪に移り、そして高岡市内の現在の場所に至りました。西光寺では来る平成九年六月八日に「蓮如上人五百回御遠忌法要」を厳修すべく鋭意準備を整え

ております。また同時に念仏道場としての西光寺の抱える諸問題についても広くご理解を頂き、未来に向けて力強い歩みを確保したいと考えております。法要に結縁していただく御門徒・信徒各位の信心の結晶として、記念に真宗門徒が毎日仏壇の前で唱える「正信偈」のお写経をご用意しました。手本とした正信偈の印刷の色がやや薄く、また清書用の和紙がやや厚かったため、十分透き通らず、不自由されているようですが、まず最初に手本の正信偈を濃い墨でなぞって自分のものとし、それを下敷きにして清書すると立派な正信偈お写経が出来上がります。そして六月八日の御遠忌法要に奉納し、ご一家、ご家族の皆様、心一つになった姿を仏様にご覧いただけることでしよう。奉納されたお写経には記念の朱印を押してまたお返しします。ご家族みんなで心を込めてお写経をお願いします。また法要には帰敬式(お髪そり)も予定しております。この機会にお髪そりを受け法名を戴いて、明日への暮らしの平安を祈りましょう。さらに小さな子供さんにはお稚児行列に加わっていただき、家族の大きな愛に包まれた子供達の将来を祝福してあげてください。

《標語》

「何者をか、これを名づけて正法とする。もし道理によらば、これ真宗なり。」(仏本行經)

《真宗ひとこと知識》 本願

仏となるために修行する者(菩薩)がかならず立てる誓いで、仏となる前の願という意味であるが、ひろく如来(仏)の衆生済度の願いをさし、誓願・弘誓・弘願・本誓・大願ともいう。本願にはすべての仏・菩薩が共通しておこす総願と、それぞれの仏・菩薩固有の別願とがある。総願はいわゆる四弘誓願をいい、別願には阿彌陀仏の四十八願、薬師仏の十二願、釈迦仏の五百願などがある。阿彌陀仏の四十八願(阿彌陀の本願)は阿彌陀仏が仏となる前にあらゆる人の救済を誓って立てたものであって、十劫の過去(永遠ともいえる昔)にそれは実現され、どんな悪人でも迎え入れる浄土として極楽が建設された。この四十八願のうち、阿彌陀仏の名(名号)をとる者をすべて救うと誓った第十八願をとくに王本願・選択本願といい、絶対他力の信心の拠りどころとなっている。(真宗小事典「法蔵館」)

《行事予定》

一月一日・二日・三日	修正会	
一月八日	法話会(初お講)	(講師 教願寺 釜田恒明師)
三月八日	法話会	(講師 教願寺 釜田恒明師)
毎月八日	法話会	(講師 教願寺 釜田恒明師)
八月七日・八日	永代祠堂経会	(講師 光専寺 葉室文昭師)
八月十四日・十五日	お盆	
十月七日・八日	報恩講	(講師 長福寺 藤井 乗師)
十一月八日	法話会	(講師 光専寺 葉室文昭師)
十一月二十七日	御正忌	(講師 願浄寺 嶼 秀誠師)
十二月三十一日	除夜勤行(除夜の鐘)	

